

2. 浅間荒れによるハッ場地区の被害－長野原町と林村の文書から－

坂寄 富士夫

はじめに

天明三年（1783）の浅間山の大噴火は、地元では「浅間荒れ」とか「浅間焼け」と言い伝えられてきた。噴火の兆候は四月九日から始まり、七月七日から八日にかけての大噴火を迎えた。運命の七月八日には火砕流から変化し鎌原村を襲った土石流が吾妻川へ流れ込み、泥流と化して人馬はもとより流域にある屋敷田畑を埋め尽くしていった。泥流の直接被害は勿論、地域の人々のその後の生活に大きな影響を与える未曾有の出来事だった。近年、特にハッ場ダム建設に伴う関連の埋蔵文化財の発掘調査により当時の被害の様子が明らかにされてきた。さらに、従来知られてきた史料の整理に加え、「ダム関連古文書調査」で林地区の被害状況や関連する古文書が確認されることになった。ここでは、地域と天明泥流被害との関連や地域史研究の研究素材となり得るよう、関連する新規史料の一部を掲載することにする。

平成6年度の長野原久々戸遺跡¹⁾の調査が始められ当時の畑跡が発掘調査されたことで、被害の様子や、当時の畑耕作の様子などが確認されはじめてきた。表1は、『浅間記』(下)にみる吾妻川流域の現長野原町の泥流による被害状況一覧である²⁾。

旧 村 名	石高	被害石高	死者	被害家屋	流死馬
小 宿	113	48	149	60	70
古 森	46	22	14	13	5
与 喜 屋	126	50	5	8	6
新 井	24	20	2	6	－
横 壁	55	20	－	－	－
川 原 湯	73	68	14	19	11
羽 根 尾	258	200	27	63	30
立 石	97	9	12	7	－
坪 井	84	25	8	21	30
長 野 原	252	242	152	71	－
林	195	90	17	11	3
川 原 畑	159	80	97	21	18
合 計	1482	874	497	300	173

表1 現長野原町分（吾妻川沿岸）の
天明泥流による被害状況

貞享三年御検地水帳

発掘調査が行われた久々戸遺跡に該当する久々戸地区は、当時の長野原町の「字くゝと」にあたり、居住地から1 km以上も離れた耕作地であった。長野原町の貞享三年（1686）『上野国吾妻郡長野原町御検地水帳』³⁾では、全体で

中田	1 反 2 畝11歩	分米	1 石 1 斗 1 升 3 合
下田	7 反 5 畝28歩	分米	5 石 3 斗 2 升 5 合
下々田	1 反 5 畝28歩	分米	7 斗 9 升 7 合
田の計	1 町 4 畝 7 歩	分米	7 石 2 斗 2 升 5 合
上畑	4 町 9 反 8 畝22歩	分米	44石 8 斗 8 升 6 合
中畑	6 町 5 反 2 畝10歩	分米	45石 6 斗 6 升 3 合
下畑	11町 9 反 9 畝 9 歩	分米	59石 9 斗 6 升 5 合
下々畑	16町 9 反 5 畝歩	分米	50石 8 斗 5 升
山下々畑	10町 4 反 2 畝11歩	分米	20石 8 斗 4 升 7 合
屋敷	2 町 5 反 6 畝 1 歩	分米	23石 4 升 3 合
畑屋敷の計	53町 4 反 3 畝23歩	分米	245石 2 斗 5 升 4 合

田畑屋敷合 54町4反8畝歩

と集計される。合計の数値で一部の不一致があるが、天明泥流に埋没した耕作地が相当数にのぼるものと考えられる。残念ながら当時の被害記録が残されておらず推定に頼るしかない。このうち、「くゝと」に該当するのは、計21枚のすべてが畑で、「中畑（1反5畝15歩）、下畑（6反4畝20歩）、下々畑（8反9畝17歩）、山下々畑（5畝20歩）計1町7反5畝12歩」が確認できる。大半は下畑や下々畑であるものの、居住地からは、琴橋で吾妻川を渡り、対岸の久々戸の耕作地へは「草津みち」の街道沿いであったことがこの耕作地の特徴といえよう。また、町域に関しては、その大半が泥流に被災したことが文書記録に残されていない理由である。これらが、発掘調査で得られた資料とどれだけ互換できるかは、今後の研究の進展に期待するところである。

中棚Ⅱ遺跡及び下原遺跡が該当する林村では、貞享三年（1686）の『上野国吾妻郡林村御検地水帳』⁴¹）によれば、

上田	8反9畝2歩	分米	9石7斗9升7合
中田	1町1反1畝10歩	分米	10石 2升
下田	9反6畝7歩	分米	6石7斗3升6合
下々田	5反4畝13歩	分米	2石7斗2升2合
田の計	3町5反1畝2歩	分米	29石2斗7升5合
上畑	2町4反2畝28歩	分米	21石8斗6升4合
中畑	9町9反6畝7歩	分米	69石7斗3升6合
下畑	7町8反5畝29歩	分米	39石2斗9升8合
下々畑	6町9反7畝27歩	分米	20石9斗3升7合
山下々畑	1町9反8畝24歩	分米	3石9斗7升6合
屋敷	1町1反4畝23歩	分米	10石3斗2升9合
畑屋敷の計	30町3反6畝18歩	分米	166石1斗4升
田畑屋敷合	33町8反7畝20歩	分米	195石4斗1升5合

である。

荒地反別書上帳と皆済目録

天明泥流被災に関する史料として、『天明五年荒地反別書上帳』（写真1）⁵¹）、に林村の荒所が集計されている。これは、林村の荒所を代官所に報告したものであるが、このうちの「去る卯浅間焼御普請被仰付候分」は、田畑屋敷合計13町4畝7歩、高67石1斗3升6合6タとなっている。尚、この文書には次のように無難地の面積が書かれている。これが、被害を受けなかった土地と判断され、以下、くうつう（地名）を除いた無難地は、

- 上田（2反歩）
- 中田（6反12歩）
- 下田（4反6畝13歩）
- 下々田（2反6畝9歩）
- 上畑（1町5反4畝17歩）新屋敷（3畝25歩）
- 中畑（6町5反3畝6歩）新屋敷（1反4畝16歩）
- 下畑（1町7反1畝14歩）新屋敷（4畝3歩）
- 下々畑（4町3反2畝歩）新屋敷（6畝歩）



写真1

山下々畑（1町2反4畝14歩）

屋敷（9反9畝3歩）

と記録される。

文書から林村では、総面積の4割の面積が泥流の被害を受けたことがわかる。林村の内でも吾妻川に面する耕作地にその被害の中心があった天明の浅間荒れに関係して、区有文書史料で、どれほどの被害を受けたかを知ることが出来る値である。また、別に貞享三年の検地帳による林村の石高は195石4斗1升5合で、この反別は33町8反7畝20歩となっている。

この他に、天明二年（1782）寅・天明三年（1783）卯・天明四年（1784）辰の3年間の年貢について、各年の皆済目録⁶⁾の値を比較することにより被災前後の年貢の変遷を知ることが出来る。

天明二年寅	米18石6斗8升2合	永48貫832文3分（貨幣納）
天明三年卯	米年貢なし	永12貫291文5分
天明四年辰	米10石4斗3升7合	永49貫442文2分6厘

終わりに

ここで使用した林区有文書は天明五年巳九月『荒地反別書上帳』、天明三年卯三月『去寅皆済目録』、天明四年辰二月『去卯皆済目録』、天明五年巳三月『去辰皆済目録』の4点であり、いずれも、新規史料として天明泥流被害に関する資料的価値を有すると考えるので以下に全文釈文を添えた。参照頂ければ幸いである。

註

- 1) 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 第240集 1998『長野原久々戸遺跡』。
- 2) 萩原進 1986『浅間山天明噴火史料集成』Ⅱ。
- 3) 1976『長野原町誌』上。
- 4) 3に掲載を原典で一部修正。
- 5) ハツ場ダム地域文化財調査会 2001『長野原町の古文書』林-4-5（篠原義商店所蔵）。
- 6) .ハツ場ダム地域文化財調査会 2001『長野原町の古文書』林区有-1-6～8。
- 7) ハツ場ダム地域文化財調査会 2001『長野原町の古文書』林-4-5（篠原義商店所蔵）。
- 8) ハツ場ダム地域文化財調査会 2001『長野原町の古文書』林区有-1-6。
- 9) ハツ場ダム地域文化財調査会 2001『長野原町の古文書』林区有-1-7。
- 10) ハツ場ダム地域文化財調査会 2001『長野原町の古文書』林区有-1-8。

2. 浅間荒れによるハッ場地区の被害―長野原町と林村の文書から―

天明五年 上州我妻郡林村 荒地反別書上帳 巳九月 名主 文蔵⁷⁾

一、高百九拾五石四斗壹升五合

此反別三十三町八反七畝廿歩

此訳

高廿九石貳斗七升五合

三町五反壹畝貳歩 田方

内訳

高九石七斗九升七合三夕

上田八反九畝壹歩 畑成

壹反八畝壹歩 此度浅間荒前々川欠引

六畝拾貳歩 同荒去々子川欠砂入引

高三斗五升九合三夕

上田畑成三畝八歩 同荒午免直反永百五十文

三反七畝三歩 去る卯浅間荒御普請被仰付候分

壹畝歩 作付仕候得共草立不申候分

残貳反歩 無難地

高拾石貳升壹合壹夕

中田壹町壹反壹畝拾歩 畑成

七畝五歩 前々川欠引 浅間荒御普請被仰付候分

七畝三歩 去ル子川欠砂入引

高貳斗八升貳合壹夕

畑成三畝四歩 同午免直し反永百拾五文

貳反九畝九歩 去る卯浅間荒御普請被仰付候分

壹畝三歩 作付仕候得共草立不申分

残六反拾貳歩 無難地

高六石七斗三升六合三夕

下田九反六畝七歩 畑成

三畝歩 前々川欠引

七畝廿七歩 浅間荒去々子川欠砂入引

三反六畝廿七歩 去る卯浅間荒御普請被仰付候分

貳畝歩 作付仕候分

残四反六畝拾三歩 無難地

高貳石七斗貳升壹合七夕

下々田五反四畝拾三歩三夕

六畝九歩 去る卯浅間荒御普請被仰付候分

貳畝拾八歩 浅間荒去る子川欠砂入引

壹反七畝廿七歩 去る卯浅間荒御普請被仰付候分

壹畝拾歩 作付仕候分

残貳反六畝九歩 無難地

高六拾六石七斗八升壹合

三拾町三反六畝拾八歩 畑方

此訳

高貳拾壹石八斗六升四合

上畑貳町四反貳畝廿八歩

三畝拾三歩 前々川欠引

七反三畝拾三歩 去る卯浅間荒御普請被仰付候分

新屋敷貳畝八歩 同断荒

五畝拾貳歩 蒔付候分

残壹町五反四畝拾七歩 無難地

新屋敷三畝廿五歩 同断

高六拾九石七斗三升六合三夕

中畑九町九反六畝七歩

壹反三畝壹歩 前々川欠引去る卯浅間焼被成候

八畝廿七歩 去る子川欠引 同断荒

貳町壹反歩 同断荒

新屋敷貳畝七歩 同断荒

貳反四畝廿六歩 午起返取下 同断荒

貳拾四歩 去午免直反永七十文同所荒

六反八畝廿歩 作付け候分

残六町五反三畝六歩 無難地

新屋敷壹反四畝拾六歩 同断

高三拾九石貳斗貳升八合貳夕

下畑七町九反四畝拾七歩

九反九畝拾七歩 前々川欠引此度浅間荒御普請被仰付候分

七反三畝六歩 去る子川欠引 同断荒

五歩 未卯起返り 同断荒

六畝四歩 午荒畑起返取下同断荒

五畝拾九歩 去申起返り取下同断荒

三町八反壹畝三歩 去る卯 浅間荒

四反三畝六歩 作付け仕候

残壹町七反壹畝拾四歩 無難地

新屋敷四畝三歩 同断

高七升 なし

下畑壹畝拾貳歩 こうつつ浅間荒

高貳拾石六斗四升九合

下々畑六町八反八畝九歩

三畝歩 午起返り此度荒相成候分

七畝拾七歩 去る午免直し同断荒

貳町貳反三畝歩 去る卯浅間荒御普請被仰付候分

壹反六畝廿貳歩 作付仕候

残四町三反貳畝歩 無難地

新屋敷六畝歩 同断

高貳斗八升八合 なし

下々畑九畝拾八歩 空通無難地

高三石四升七夕

山下々畑壹町五反貳畝壹歩

三畝壹拾五歩 去る子川欠此度浅間焼御普請被仰付候分

五畝廿六歩 去る申起返り 同断荒

壹反八畝六歩 去る卯浅間荒

残壹町貳反四畝拾四歩 無難地

高九斗三升五合三夕

山下々畑四反六畝廿三歩空通分 無難地

高拾石壹斗七升

屋敷壹町壹反三畝歩

内壹反三畝廿七歩 去る卯浅間荒

残九反九畝三歩 無難屋敷

高壹斗五升八合九夕 なし

屋敷壹畝廿三歩 空通無難地

荒 所 反 別

上田六反貳畝拾六歩 去る卯浅間焼御普請被仰付候分

中田四反三畝拾七歩 同断荒

下田四反七畝貳拾四歩 同断荒

下々田貳反六畝貳拾四歩 同断荒

田合壹町八反貳拾壹歩

上畑七反九畝四歩 去る卯浅間焼御普請被仰付候分

中畑貳町三反壹畝廿八歩 同断荒

下畑五町五反三畝廿六歩 同断荒

下々畑貳町貳反三畝歩 同断荒

山下々畑貳反壹畝廿壹歩 同断荒

屋敷壹反三畝廿七歩 同断荒

畑屋敷合拾壹町貳反三畝十六歩

高六拾七石壹斗三升六合六夕

浅間荒れ所

田畑ノ拾三町四畝七歩

屋敷惣

去寅御年貢皆済目録 高百九拾五石四斗壹升五合 上野国吾妻郡林村⁸⁾

一、米拾八石六斗八升貳合

本途

一、永四拾三貫百五拾文貳分

同断

一、永七文壹分

見取

一、永五百貳拾八文

小物成

懸高百九拾五石四斗壹升五合

一、永五百八拾六文

夫錢

一、永壹貫三百貳拾八文壹分

口永

一、永四百八拾八文五分

御蔵前入用

一、米壹斗壹升七合

御伝馬宿入用

此斗立壹斗貳升四合

此代永百四拾壹文七分

一、米五斗三升四合

口米石代

懸高百九拾五石四斗壺升五合		永四拾八貫八百三拾貳文三分	
一、大豆三斗九升壺合	同断	右 弘	
此斗立四斗壺升三合		米三斗九合五夕	在大豆代永渡
此代永八百貳拾六文		米五斗壺升三合五夕	餅米初代永渡
一、荏菥斗九升五合	同断	米拾石五斗四升	御関所番人・御扶持方渡
此斗立貳斗六合		米八石三斗八升七合	定石代
此代永貳百四拾貳文四分		此代永九貫五百八拾五文壺分	
一、細餅米壺斗三升六合	同断	納合永五拾八貫四百拾七文四分	
此代永三百貳拾七文七分		外永四拾八文七分	包分銀
一、太餅米壺斗九升壺合	同断	右者去寅御年貢本途見取	
此代永三百八拾貳文		小物成口米永高掛者等書面	
一、太餅粳壺斗三升六合	同断	之通今皆濟候ニ付小手形引上	
此代永百七拾八文		一紙目錄相渡候間此上小手形	
米拾八石六斗八升貳合		有之候共可為反古者也	
合 此斗立拾九石七斗五升		天明三卯年三月 原 清右衛門 (印)	
		右村 名主 組頭 惣百姓	

去卯御年貢皆濟目錄 高百九拾五石四斗壺升五合 上野国吾妻郡林村⁹⁾

一、本途米なし		一、大豆三斗九升三合	石代
一、永八貫五百五拾老文三分	本途	此斗立四斗三升三合	
一、永七文壺分	見取	此代永老貫三拾二文五分	
一、永五百貳拾八文	小物成	一、荏菥斗九升五合	同断
摺高百七拾九石九斗貳升九合		此斗立貳斗六合	
外高拾五石四斗八升六合 田高五拾貳石 損毛之分去卯燭荒		此代永三百貳拾貳文	
一、永五百三拾九文五分	夫錢	一、細太餅米粳なし	
一、永三百文八分	口永	合永拾貳貫貳百九拾老文五分	
摺高百七拾九石九斗貳升九合		右 弘	
外高拾五石四斗八升六合 右同断		米三斗九合五夕	在大豆代返濟
一、永四百四拾九文	御藏前入用	納合永拾老貫八百八拾四文七分	
摺高外高右同断		外永九文九分	包分銀
一、米壺斗八合	御伝馬宿入用	右者去卯御年貢本途見取小物成	
此斗立壺斗壺升四合		書面之通今皆濟ニ付小手形引上一紙目錄	
此代永百五拾九文六分		相渡候此上小手形有之候共可為反古者也	
一、口米なし		天明四辰年二月 原 清右衛門 (印)	
摺高老百九拾五石四斗三升五合		右村 名主 組頭 惣百姓	

去辰御年貢皆濟目錄 高百九拾五石四斗壺升五合 上野国吾妻郡林村⁹⁾

一、米拾石四斗三升七合	本途	一、太餅粳壺斗三升六合	石代
一、永三拾貫貳百四拾六文壺分	同断	此代永貳百七文六分	
一、永七文壺分	見取	一、永老貫貳百七拾參文	辰ノ申迄五ヶ年賦夫食代返納
一、永五百貳拾八文	小物成	一、永九百六拾五文七分六厘	右同断 種麦代返納
一、永五百八拾六文	夫錢	米拾石四斗三升七合	
一、永九百四拾壺文	口永	合 此斗立拾老石三升七合	
一、永四百八拾八文五分	御藏前御入用	永三拾七貫七百六拾九文壺分六厘	
一、米壺斗壺升七合	御伝馬宿入用	右 弘	
此斗立壺斗貳升四合		米三斗九合五夕	在大豆代米渡
此代永百四拾老文七分		米五斗壺升三合五夕	餅米初代米渡
一、米貳斗九升八合	口米石代	米拾石貳斗壺升四合	定石代
此斗立三斗壺升五合		此代永拾貫六百七拾三文壺分	
此代永三百六拾文		納合永四拾九貫四百四拾貳文貳分六厘	
懸高百九拾五石四斗壺升五合		外永四拾老文貳分	包分銀
一、大豆三斗九升壺合	石代	右者去辰御年貢本途見取	
此斗立四斗壺升三合		小物成口米永高掛物等書面之通	
此代永八百貳拾六文		今皆濟候ニ付小手形引上一紙	
一、荏菥斗九升五合	石代	目錄相渡候此上小手形在之候共	
此斗立貳斗六合		可為反古もの也	
此代永三百七文五分		天明五巳年三月 原 清右衛門 (印)	
一、細餅米壺斗三升六合	石代	右村 名主 組頭 惣百姓	
此代永四百貳拾五文			
一、太餅米壺斗九升壺合	石代		
此代永四百五拾五文九分			